

今治明德高等学校

平成二十二年 学力検査 国語問題 (矢田分校一般入試)

*解答は、すべて別紙解答用紙の該当欄に記入しなさい。

受検番号

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合上省略した部分があります。

日本人にとって、外国語の魅力がだんだん減ってきたと言われる。巷にカタカナ、横文字がはらんしているのに、と不審に思ふかもしれないが、それだからこそおもしろさがはげ出したのかもしれない。

もともと、都会の人と田舎の人とを比べると、田舎にいる人間の方が外国語にあこがれる気持がつよい。明治以降の語学者を見ても、多くは地方出身者であった。ときに、東京出身の洋学者でもないが、おくられている。地方の若ものの方が、ヨーロッパへのあこがれはいっそうつよいようだ。

戦後、生活が洋風化した。ことに近年は、自由に海外旅行ができるようになった。行ってみると、夢に描いていた青い鳥は飛んでいない。うっすらと幻滅を感じながら帰ってくるという次第になる。知ることはかならずしも幸福とは限らない。

外国語にしても、あまりよくわからなかった時代には、何となく興味を覚えたのに、うんざりするほど目につくようになると、興味索然としてくる。(a)

同じようなことは、人間と人間の間にも見られる。遠くはなれて眺めていたときにはすばらしく思われた人が、すこし親しくなってみると、さっぱりおもしろくない I、うとましくすら感じられる。恋愛などがそういう経緯をたどって破局を迎えることもすくなくない。(b)

こういう具体的経験をそのままにしておいたのでは、ほかへの応用がきかない。整理して、公式化しておくこと生活の知恵になる。遠くにいたときりつばに見えた人が親しくしてみると、いっこうに魅力のないように感じられるのは、従僕に英雄なし、ということわざにまとめておくと、これに類することが、いくらでもあるのに気づく。(c)

はじめの外国語の潤滑は、よくわからずに心をひかれていたのが、白日のもとに出てしまつて色あせて見えるという現象で

ある。これをさらに純化させると、ことわざの「夜目、遠目、笠の内」になる。これは女性が美しく見える状況を言ったものだが、一般に、距離がやや大きすぎて、さだかに見えないものに、われわれは心をひかれる。あまり近くなると、ハナにつく。ハナについたものが、美しくおもしろく感じられるわけがない。(d)

サラリーマンが仕事がおもしろくない、上役に叱られた、というようなことがあると、ほかの人のしていることがよさそうに思われる。自分のやっている仕事がいちばんつまらなさそうだ。思い切ってやめてしまえ、となる。商売変えたところで、同じ人間がするのである。急に万事うまく行く道理がない。またおもしろくなくなる。Ⅲ、またも、ほかの人の職業がよさそうに見える。(e)

学生でありながら、早くも、同じ傾向を示すのがある。英文科へ入って来て、しばらくすると、退屈さわりない。心理学科はそれに引きかえ、実験があつて、いかにも学問らしい。あれへ転向しよう、というので転科する。二年もすると、心理にもあきてくる。もつと刺激のある勉強がしたいといつてⅢ、物理学科へ入りなおす。こういう人間は結局、何もできないで終わる。

こういう例は世の中にごろごろしている。それなのに、相変わらず、同じことをくりかえす人があとからあとあらわれる。めいめいの人にはかの人の経験が情報として整理されていないからである。整理されていないわけではない。ちゃんと、ことわざという高度の定理化が行われているのに、それを知らないでいるためである。

たえず職業を変えるのは、賢明でない。そのことは、古くからはっきりしていた。(X) というのがそれである。イギリスには、これを「ころがる石はコケ(お金)をつけない」と表現した。とにかく、じつと我慢が必要だ、ということである。なぜ、英文科の学生に心理学がおもしろそうに見えるのか。人間性がそういうようになっていいるからである。あすは試験という前の晩、勉強をしようとしていると、ふだんは目もくれない難解な哲学書などを、何となくのぞいて見たくなる。ちよつとのつもりが、なかなかやめられなくて、ついつい読みふけて、勉強の計画を狂わせる——このことはすでに書いた。

こういう経験は (Y) ということわざのもとに分類、整理しておく、ずいぶん思考の節約になる。遠くから見る隣りの花だから、ことさらに赤く見える。そこへ行ってよくみると、何と虫だらけであるという場合だつてないとは言えない。目の前の花は、実際よりも色あせて見える。

(中略) 学校教育では、どういうわけか、ことわざをバカにする。ことわざを使うと、インテリではないように思われることもある。しかし、実生活で苦勞している人たちは、ことわざについての関心が大きい。現実の理解、判断の基準として有益だからである。

ものを考えるに当たつても、ことわざを援用すると、簡単に処理できる問題もすくなくない。現実を起こっているのは、具体的問題である。これはひとつひとつ特殊な形をしているから、分類が困難である。これをパターンにして、一般化、記号化したのがことわざである。Aというサラリーマンの腰が落ちつかず、つぎつぎ動機を変えている。これだけでは、サラリーマン一般、さらには、人間というものにそういう習性があつて、その書が古くから認められていることに思ひ至るのは無理だろう。

これに (Z) というパターンをかぶせると、サラリーマンAも人間の習性によって行動していることがわかる。別に珍しくもない、となる。

具体例を抽象化し、さらに、これを定型化したのが、ことわざの世界である。庶民の知恵である。古くから、どの国においても、おびただしい数のことわざがあるのは、文字を用いない時代から、人間の思考の整理法は進んでいたことを物語る。個人の考えをまとめ、整理するに当たつても、人類が歴史の上で行ってきた、ことわざの創出が参考になる。個々の経験、考えたことをそのままの形で記録、保存しようとするれば、煩雑にたえられない。片端から消えてしまひ、後に残らない。

- (注1) 巷……世間、町中。
 (注2) 索然……おもしろみがなくなること。
 (注3) 定理化……明らかに正しいものとして言葉で表されたこと。
 (注4) 採用……自分の説を補強するために他の文献・事例などを引き用いること。
 (注5) 煩雜……物事が多くてごたごたしていること。

問1 I Ⅲ に入る最も適切な語句を、次のア～カの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア すると イ しかし ウ たとえば エむしろ オ 一方で カ さらに

問2 (X) (Y) (Z) にはことわざが入ります。最も適切なことわざを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ころがる石はコケをつけない

イ 隣りの花は赤(美し)い

ウ 馬の耳に念仏

エ 石の上にも三年

オ 猿も木から落ちる

問3 本文には次の一文が抜けています。どこにいたらいいですか。本文中の(a) (b) (c) の記号で答えなさい。

こういう人はいつまでたっても腰が落ちつかない。

問4 ……線部ア～オの「ない」の中から、品詞の異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問5 ……線部①「外国語の魅力がだんだん減ってきた」について、

(A) それはどうしてですか。その理由として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国語にあこがれる気持ちを強く持つ田舎に住む人が、減少したから。

イ 外国語に接する機会が多く、外国語についてよくわかるようになったから。

ウ いつでも、誰でも気軽に海外旅行に行くことが、可能になったから。

エ 洋風化がすすみ、逆に日本文化を見直そうと考える人が増加したから。

オ 身の回りにカタカナ、横文字がはらんし、外国語に興味を失ったから。

(B) また、「外国語の魅力がだんだん減ってきた」と同じ意味の表現を、本文中より六字で抜き出して答えなさい。

問6 ……線部②「知ることはかならずしも幸福とは限らない」のはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不必要な知識や経験は、人の判断力や行動力をむしろ鈍らせてしまうから。

イ 知ってしまうと、そのものが持つ悪いところしか見えなくなるから。

ウ 物事を知るということは、あれこれ心配事が増え、不幸なことであるから。

エ 情報により知っていたことが、実際に経験したものは大違いだから。

オ 知ってしまうと、長所・短所など、その真の姿がわかるようになるから。

問7 ……線部③「ことわざ」とは、どのようなものですか。その説明として適切な部分を本文中より二十一字で抜き出し、解答欄に合うように答えなさい。

問8 本文の表題として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自己の経験 イ 具体的事象 ウ ことわざの世界 エ ことわざの変遷 オ 思想の体系化

二 次の①～⑤の各文の——線部の読み方を平仮名で答えなさい。

- ① 勉強を怠る。
- ② 台風で損害を被る。
- ③ 濁色に水が濁る。
- ④ 彼には何か魂胆がありそうだ。
- ⑤ 所轄の警察署に連絡する。

三 次の①～⑤の各文の——線部の部分を漢字で答えなさい。ただし、必要なものには送り仮名をつけること。

- ① この計算はヤサシイ。
- ② 科学についてわかりやすくノベル。
- ③ 注意力サンマンな人。
- ④ 授業でカエルのカイボウをする。
- ⑤ 副会長が会長をホサする。

四 次の文章は、瀬尾まいこの「戸村飯店青春100連発」の一節である。大阪に住む高校三年生の戸村コウスケ（俺）は高校卒業と同時に実家の中華料理店である戸村飯店の跡を継ぐつもりでいた。しかし、そのことを父親に猛反対されてしまったため、東京にいる一つ年上の兄に相談したところ、大学進学を勧められる。大学進学を決意したコウスケは好きな女の子である岡野に励まされながら受験勉強に取り組み、いよいよ大学受験を迎えた。本文は出発当日の場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

出発の日の朝、俺宛に荷物が届いた。

日時指定で送られてきたくせに、送り主の名前もなく、茶色い紙でいい加減に包装された**びつな形**の荷物で、「なんやねん、気味悪いなあ」と、ばやきながらびりびり包みを破いた。

紙包みの中には、巨大な白い布の塊が入っていた。人形、どうやらてるてる坊主のようだ。^①頭の部分にこれでもかかってくら**いぎっしり**新聞紙が詰まっていて、ずっしり重い。にじんだマジックで顔まで描かれている。

^②「いったいなんなんだ、この不気味な物体は、誰がなんのつもりで送ってきたんだ」と、てるてる坊主を抱き上げたとき、一気に記憶が流れ出た。そうだ、これはてるてる子だ。

俺と兄貴は子どものとき、ことあることにてるてる坊主を作った。俺たちはてるてる坊主が天気を左右するものだと知らず、幸せをもたらしてくれるお守りのようなアイテムだと思っていた。だから、運動会や遠足の前の日はもちろん、小遣いを備上**げ**してほしいときやテストの前にも、てるてる坊主を作ってお祈りをした。

「あつ、明日参観日やで、お母さんたち見に来んようにてるてる子作って防衛しよう」

とか言いながら、ティッシュを丸めて輪ゴムで止めマジックで顔を描いて天井からぶら下げる。それが戸村兄弟のお守りだった。俺たちはてるてる坊主を「てる子」と名づけ、祈りをこめた。効き目のほどはわからないけど、狭い部屋の中にはしょつちゆうてる子がぶら下がっていた。もちろん、小学校を卒業するころにはそんな習わしは自然となくなっていたけど。

兄貴から届いた荷物は、てるてる坊主だけで他には何も入っていない。でも、てる子は最高の笑顔をしていた。

「やっぱ、あいつはあほやなあ。どうせなら、コンパクトサイズにしてくれたらええのに」
俺はすでに満杯のかばんの中にてるてる子を詰め込んだ。

岡野は駅まで見送りに来てくれた。

「これが行きの電車の中で食べる分で、こっちがホテル着いてから食べる分で、あと入試の日の朝と終わってから食べる分ね」
岡野は小分けされたいつものお菓子が入った小さな紙袋を渡してくれた。そんないっぱい小麦粉の塊を食べたら入試直前に胃がおかしくなりそうやと、心の中でつつこみながらも、俺はありがとうを言った。

電車が来るまで少し。岡野と並んで待つ。登下校のときも同じ駅を使っているから、何度も繰り返し返している日常だ。だけど、今日は私服のせい、寒さで I 赤くなった頬のせい、いつもよりもっと岡野がかわいく見えて、

「受かったら、離れてしまうな」

思わず俺はつぶやいていた。

「離れるって？」

「俺、埼玉に住むことになるやろ」

「だからなんなん？」

「何ってことないけど」

「どうでもええけど、私のこと、落ちたとき言い訳に使わんとってよ」

岡野はしかめっ面を作った。

「そんなに使わへんわ。ってか、落ちるわけあらへん」

「そうやね。ほんま受からんとね」

「うん、がんばるで」

俺は小さなガッツポーズを作っただけを見た。

「さつと、コウスケやつたら大丈夫やよ。勉強かって、まあ、土壇場やつたけどいっぱいしたし」

「そやな。ほんまありがとう」

「私はなんもしてへんけど」

「そんなことない。勉強とか毎日見てくれたし、まあ、うまないけどお菓子もいっぱいくれたやん」

「うまないけどは余計やわ。でも、コウスケが大学行くのには、^①いろいろな人の思いがかかっているからね」

「うん、わかっとる」

岡野の言葉はすこく素直に心に入ってきた。本当にそのとおり。ここでは、たくさんの人が応援してくれる。それは
II 戸村飯店の息子だからだ。とてもありがたいことだけど、いつまでも戸村飯店の息子つものに、頼ってはいけ
ない。

電車がホームに入ってきた。いつものとほけた緑色の電車。けれど、今日はいつもと違う場所に俺を連れて行く。

「よっしゃ、まあいっちょ行ってくるわ」

俺はわざとらしいくらい自然な口調で言った。

「うん。コウスケ、がんばって」

岡野はいつもと違って、真剣な目をして俺に手を振った。

電車の扉が閉まって、III 加速していく。岡野はずっと手を振ってくれた。なんて悲しい選択^②をしてしまったのだろ
う。俺はそう思いそうになるのを振り切るように一生懸命手を振った。

岡野がくれた紙袋の中には、お菓子だけでなく手紙が入っていた。

今回はゴーストライターを立てずに自分で手紙を書きました。

でも、受験勉強中のアドバイスは、戸村先輩の受け売り^c。

毎日のように、コウスケの勉強状況を尋ねてきたんだよ。

コウスケ、愛されてるね。そして、私もコウスケのことが好き。

封筒にも入っていないなくて、ただのルーズリーフにたった四行、黒いボールペンで書かれていた。でも、十分俺を勇気づけた。ちきしょう。岡野、めっちゃかわいいやん。ちきしょう。兄貴、やっぱ俺の何倍も賢いやん。

⑧ 本気で俺は勉強しなくてはいけない。大学でなんでもかんでも頭に詰め込んで、自分にできること見つけてめっちゃ賢くならなくてはいけない。

俺は、ほとんど使わないものでいっぱいになっているかばんをもう一度しっかり持ち直した。

〔注一〕ゴーストライター……表だった執筆者のかけにいて、実際にその文章を書いた人。岡野は以前はコウスケの兄が好きで、コウスケにラブレターの代筆を頼んだことがあった。

問1 I I III に入る最も適切な語句を、次のア～カの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア のんびり イ あたかも ウ いっそう エ ほんのり オ はっきり カ たぶん

問2 線部 a「いびつな」・ b「しかめっ面」・ c「受け売り」の意味として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問3 線部①「ようだ」と同じ意味で使われているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野球のようなスポーツが好きだ。 イ 赤ちゃんの手はもみじの葉のようだ。

ウ 彼女の性格はおとなしいようだ。 エ 彼のように正直な人物になりたい。

オ まるで悪い夢を見ているようだ。

問4 線部②「いったいなんなんだ、この不気味な物体は」に用いられている表現技法を、漢字で答えなさい。

問5 線部③「てる子」とは、コウスケと兄にとってはどのようなものだったのですか。そのことが説明されている部分を、本文中から二十二字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問6 線部④「いろいろな人の思い」を象徴しているのは何ですか。本文中から二十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問7 —— 線部⑤「悲しい選択」とありますが、なぜ「悲しい」のですか。二十五字以内で答えなさい。

問8 —— 線部⑥「本気で俺は勉強しなくてはいけない」におけるコウスケの心情として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学入学後の生活に寂しさや不安を感じ、勉強に没頭することで解消しようと考えている。

イ 自分が結局兄に見守られていたことを知り、勉強することで兄を見返したいと心に誓っている。

ウ 岡野がまだ兄を好きだったことにショックを受け、岡野の気持ちを自分に向けたいと願っている。

エ 自分が多くの人に支えられていることを実感し、勉強して成長することで応えたいと決意している。

オ 多くの人々から助けられていたことを知り、これからは自分だけの力で生きていく決意を固めている。

五 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、小野宮殿の御子に、少将なる人おはしけり。はかなくわづらひて亡くなりければ、小野宮殿、泣きたまふこと限りなし。さて、この少将の乳母、夫に従ひ、陸奥国に行きたりけるが、少将亡くなりて三月ばかりになるほどに、若者かくじくなりたまへりともつゆ知らず、悲しくわびしきことを書きて御文参らせたりけり。返り事、小野宮殿を書きてつかはしける。その人は、このほどに、はかなくわづらひて亡くなりしかば、我、今まで生きたることをなむ、心うく覚ゆるとはかり書きて歌をなむ詠みてつかはしける。

③ 本村 ④ 本村
まだ知らぬ人もありけり東路に我も行きてぞ過ぐべかりける

〔古本説話集〕による

(注1) おはしけり……………いらつしやつた。

(注2) 乳母……………母親の代わりに、子に乳を飲ませて養育する女性。

(注3) 陸奥国……………今の東北地方。東路も同じ。

(注4) 御文参らせたりけり……………お手紙を差し上げた。

問1 —— 線部a「わづらひ」・b「つかはし」を現代仮名遣いに直して答えなさい。

問2 —— 線部X「若者」とは誰のことですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小野宮殿 イ 少将 ウ 乳母 エ 夫 オ 知らぬ人。

問3 少将の父の手紙はどこからですか。初めの五字を抜き出して答えなさい。

問4 —— 線部①「つゆ知らず」・②「心うく覚ゆる」の現代語訳を、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「つゆ知らず」

ア つらいことを知らないで、
イ 少しでも知らないで、
ウ 少しも知らないで、
エ うすうす知っていて、
オ くわしく知っていて、

②「心うく覚ゆる」

ア うらやましく思われる。
イ なつかしく思われる。
ウ うれしく思われる。
エ つらく思われる。
オ 喜ばしく思われる。

問：——線部③「東路に我も行ってぞ適くべかりける」とは「私も陸奥国に行って適こそばよかったなあ」というような意味ですが、小野宮殿はなぜそのように思ったのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 陸奥国にはまだ一度も行ったことがないから。

イ 陸奥国には親しい乳母が住んでいるから。

ウ 夏暑く冬寒い京都には住みあきたから。

エ 子どもが死んだ京都では長生きできないから。

オ 子どもを亡くした悲しみを知らずにすむから。